



鹿島神社

当社の鹿島神社の親神様は茨城県鹿島郡鹿島町鎮座の「鹿島神宮」であり、創建は、神武天皇即位年の皇紀元年(紀元前六六〇年)といわれている。祭神は武甕槌命(タケミカヅチノミ)

# つるぎ

発行所

鶴崎神社

早島町早島2220

〒701-0304

TEL 482-0097

FAX

神代の  
昔、武  
甕槌命  
は天孫  
コト)。

降臨に先立って経津主命(香取神宮の祭神)と共に出雲国に降り国土献上の交渉に大功を樹てられた。古くからこの地方一帯は、藤原鎌足の鹿島での出生伝もある程古代の名族中臣氏と関係深い。大和朝廷の本国経営に際しても当社の神威はしばしば発揚せられた。都が平城京に遷されるに及び、藤原氏は当社の祭神を迎えて春日大社の第一殿に祀った。延喜の制名神大社に列なり、常陸国の一宮と信仰され、明治に至り官幣大社に列し当国第一の名社となる。

また、武甕槌命は武道の神様として有名であり、そのため鹿島神宮周辺は武芸が盛んとなり剣聖・塚原ト伝を生んでいる。又、境内の鹿園には奈良春日大社から譲り受けた鹿がいる。ちなみにJリーグの鹿島アントラーズのチーム名「鹿の枝角(antler)」はこの鹿

## 摂末社巡拝 ②

### 鹿島神社

にちなんでいる。当社の鹿島神社は正徳五年(一七一五)安原和泉守草壁徳忠の本願により建立したもので、その様式は御堂形式で古くは毘沙門天を祀っていた事から、毘沙門堂と呼ばれていた。

【鹿島神宮御船祭】  
鹿島神宮の祭神である「武甕槌神(たけみかずちのかみ)」と、香取神宮(千葉県佐原市)の祭神である「経津主神(ふつぬしのかみ)」の二柱の武神が水上で再会するという祭。水上の御船祭としては国内最大の規模と華麗さを誇る。

鹿島神宮から出御した神輿は、鰐川の大船津で船に乗せられ、この御座船を中心として五〇隻以上の船が、平安絵巻さながらに行列を組んで進んでいく。河川湖沼の水の道を通り、水郷地帯の加藤洲で経津主神の歓迎を受けたあとは、再び鹿島神宮に戻る。現在は十二年に一度午(うま)年に行われ、海上安全・豊漁祈願を願う祭となっている。(次回は平成十四年九月二日)

# 神道Q&A

## 【質問】

私の家の氏神様は鶴崎神社でありその氏子となっておりますが氏子とはどういうものかを教えて下さい。

## 【答え】

氏神さまは、皆さんが住んでいる地域をお守り下さる神さまⅡ神社です。古くは同じ一族Ⅱ氏族がおまつりしていた神さまを氏神と申し上げましたが、のちに主として地域の守り神Ⅱ鎮守さまを意味するようになりました。氏神さまに守られている地域の人々すべてを氏子といい、住所によって氏神・氏子の関係が定まっています。当社の氏子区域は早島町（矢尾は除く）、西田（亀山）、中帯江、五日市、早高、高須賀、帯高となっておりま。また、氏子の代表として神社のお世話をする方を氏子総代といひます。

神社では毎月一日の月次祭（つきなみさい）を始め、春、夏、秋等のお祭りには申し出の有無に拘わらず氏子の皆様方の安泰を大神様にご祈念申し上げております。これらは神社の本来の祭祀の基本であり、またその神社を支えるのが氏子の皆様という訳です。

近年では信教の自由ということで、氏神意識が薄れ一宗教として神社を捉えがちですが、神社の創始は宗教という言葉すらなかった時代その地域の村落の形成期に遡り、共同体としての文化を継承しているものであり、個人救済の宗教とは教義が異なっております。

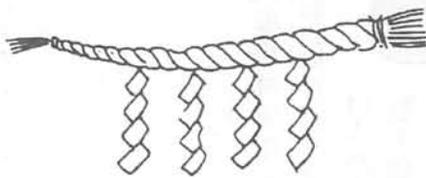
私たち日本人の祖先は、氏神さまへの感謝と祈りを生活の中心に据え、いろいろな役目を分担しながら毎年のお祭りを行うことで村Ⅱ地域共同体の和を保ち、村づくりⅡ地域の発展のために努力してきたのです。

その神社をお守りし、維持運営するには皆様方氏子のご協力なくしては到底成り立つことは出来ませんので何卒よろしくお願い申し上げます。

## 神棚のまつり方その④

神棚には注連縄を張ります。注連縄を張るのはそこが神聖な場所であることを示す意味があるからです。

注連縄は、稲ワラを左縷（ナイ）にしたもので、ゴボウのように細くて太さの変わらないものをゴボウジメ、大根のようにだんだんと細くなっているものを大根ジメと呼びます。出雲大社や奈良の大神神社など地方によって違いもあるようですが、大根ジメの場合だと、神棚に向かつて右側に太い方がくるように張るのが一般的で、それに半紙等で作った紙垂（しで）を挟み込みます。



注連縄は細い縄で代用しても構いません。注連縄は年末、神棚のお神札を新しくお祀りする前に取り替えます。

## 伊勢神宮新穀感謝祭参拝旅行の御案内

日本国民が心の故郷として遠い昔から崇め奉り、親しんでまいりました伊勢神宮では、皇大神さまに稔りの新穀を捧げてお礼を申し上げるお祭が今年も執り行われますので、ご希望の方は申込金1万円を添えて10月20日までに社務所へお申込下さい。

- 1日目 岡山各地 ===各インター===吹田===大津===建部大社===信楽焼窯元見学(昼食)  
関===二見ヶ浦・興玉神社===鳥羽(泊)
- 2日目 ホテル===伊勢神宮新穀感謝祭参拝/外宮・内宮(昼食)===伊勢===関===勝川===春日井===飯田===水引工芸見学===飯田===諏訪===信州/蓼科温泉郷(泊)
- 3日目 ホテル===諏訪大社・上社本宮===諏訪===恵那(昼食)===吹田===各インター  
岡山各地

◎旅行日 平成11年11月25日(木)～27日(土) 2泊3日

◎費用 49,000円(小人45,000円)[申込金1万円、神宮献穀料5,000円、神宮記念品を含む]

◎企画 伊勢神宮崇敬会岡山県本部・岡山県神社庁

## 秋季大祭のご案内

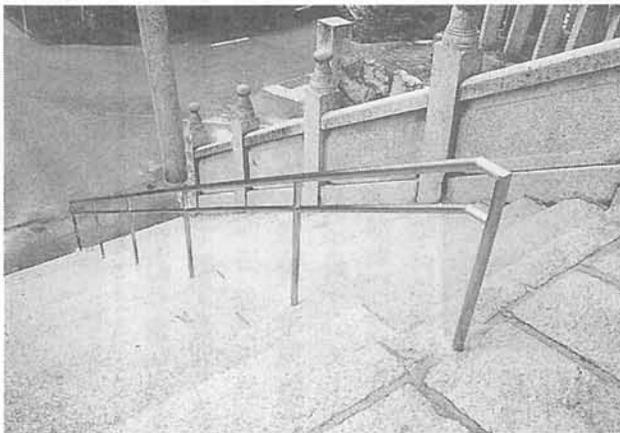
来る10月16日(土) 午前10時から恒例の秋季大祭(供膳祭)また17日(日) 午前9時から神幸祭を執行致します。当社の最も盛大なお祭りですので、ご家族お揃いでお参り下さいまして、大神様のご神徳をお受け下さいますようご案内致します。

七五三は子供の無事な発育を喜び、なお一層の成長を願って、その年の子に晴着を着せ氏神さまに詣でる行事である。古来は男女三歳で髪置きの祝い、男児五歳で袴着の祝い、女児七歳で帯解きの祝いを行ったことに由来する。十一月十五日を中心に七五三祈禱を奉仕致します。平日に御祈禱希望の方は都合のよい日をもってご予約下さい。

## 七五三詣りのご案内

## 正面石段に手摺を設置

かねてより正面の随神門までの石段が急勾配で、参拝者から手摺があればとの要望があり、総代会にて審議したところ、夏祭迄に設置する運びとなり去る七月二十六日工事が完了し、夏祭に参拝の方々から「便利になった」と好評の声が早速届きました。秋祭り、初詣等参拝時には正面からゆつくりと参拝下さい。



新設の手摺

# 鶴崎神社

## フォトコンテスト

当社の秋祭り(神幸祭)は寛保元年(二七四一)から始まったとされており、二六〇年の伝統があります。この秋祭り(神幸祭)を記録として神社に残し、氏子の皆さんに紹介する為にこの度の写真コンテストを企画致しましたので、奮って応募して下さい。また、大賞及び入選作品は神社に展示致します。

応募規定

- ① 題材 十月十六日(土)午前十時から執行する秋季大祭(供膳祭)及び十七日(日)午前九時から執行する神幸祭の風景
- ② サイズ キャビネ版・スーパード
- ③ 応募資格 特になし
- ④ 応募締切 平成十一年十一月末日
- ⑤ 応募先 鶴崎神社  
都窪郡早島町大字早島二二二〇

☎〇八六一四八二一〇〇九七

※応募は持参、郵送共可と致しますが、応募者の住所・氏名・電話番号を写真に添付して下さい。

### ⑥賞

- ◆大賞 一点 賞状 賞品
- ◆入選 数点 賞状 賞品

### 【応募上の注意】

- ◇応募枚数に制限はありません。
- ◇入賞した作品についてはネガまたはポジを提出していただきます。
- ◇原則として応募作品は返却致しません。
- ◇応募写真の版權及び著作権は、主催者に帰属するものとします。

### 諸祈禱・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております

- ◆初宮詣・交通安全・厄除・安産・家内安全・当病平癒その他
- ◆地鎮祭・上棟祭・家移清祓・宅神祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。

## 奉納品

左記の品々の奉納がありました。奉納者の方に対しまして紙上をもちまして御礼申し上げます。

- 拝殿提灯(鶴崎) 一对 栗阪多賀子
- " (八幡) 一对 "

## 祭事暦

- 十月十六日(土) [午前十時] 秋季大祭【供膳祭】
- 十月十七日(日) [午前九時] 神幸祭
- 十一月中 七五三祈禱
- 十一月二十三日(火) [午後二時] 新穀感謝祭
- 一月二日(日) [午後二時] 歳旦祭
- 毎月一日 [午前九時] 月次祭